

平成16年11月5日
農林水産省 生産局

食料・農業・農村政策審議会生産分科会畜産企画部会 第2回家畜改良増殖小委員会の概要について

下記のとおり、食料・農業・農村政策審議会生産分科会畜産企画部会第2回家畜改良増殖小委員会が開催されました。

記

1. 日時

平成16年11月4日(木) 13:30~15:45

2. 場所

東京都千代田区九段南2-1-5
農林水産省三番町分庁舎大会議室

3. 出席者

委員：別紙のとおり

4. 議事概要

各畜種別研究会の座長(別紙参照)から検討状況の報告が行われた後、意見交換が行われました。委員からの主な発言は以下のとおりでした。

今回の改良増殖目標は、各畜種ごとのめぐる情勢、改良の成果、課題が記述され、各畜種の現状について理解できるようになっており、評価できる。

改良増殖目標と消費者ニーズ、食料及び飼料自給率等との関係を整理し、畜種ごとに議論してきたことを理解してもらう必要がある。

乳脂率を下げたらどうかとの意見もあり、乳蛋白質率を向上させることを優先している。乳脂率と乳蛋白質率は正の相関が高いが、地域単位で見れば、多様な遺伝資源の利活用により乳脂率を抑えつつ乳蛋白質率を向上させることも可能。

「食い込みの良い牛」は、乳量も多く、粗飼料利用性も高いため、乳量の向上と飼料自給率の向上は両立する。

肉用牛の肥育期間については、現状では過肥の肥育もと牛がみられ、非効率的な肥育が行われていることから改善が必要。肥育期間の短縮は、遺伝的能力の向上及び肥育もと牛の早期出荷等の飼養管理技術の改善により実現可能であり、飼料自給率向上にも資する。

豚及び鶏については、生産性に関する能力水準が、かなり高いレベルに達している中で、今後は、消費者ニーズに対応した高品質化及び高付加価値化が重要になってくると考えている。また、生産性向上と品質向上の両方を進めるためには、多様な遺伝資源を確保しておくことが必要である。

豚のSPF（特定病原体不在）の記述については、消費者等にSPFだけが清浄であるとの誤解を与える恐れもあるため、表記を工夫する必要がある。

家畜排せつ物の適正管理に関する記述については、改良増殖目標の性格を考えると特に言及しなくても良いのではないか。

家畜福祉については、各畜種とも特に具体的な内容には踏み込んでいないが、現段階では、記述は難しいのではないか。

問い合わせ先

東京都千代田区霞ヶ関1 - 2 - 1

生産局畜産部畜産振興課

高橋、花立

TEL 03-3502-8111（内線3896、3897）

03-3591-6745（直通）

食料・農業・農村政策審議会生産分科会畜産企画部会
家畜改良増殖小委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

阿部 亮 日本大学生物資源科学部動物栄養科学教授
(豚研究会座長)

金井 俊男 (財)畜産環境整備機構副理事長
(馬、めん羊・山羊研究会座長)

竹林 孝 北海道農政部農政課長

富樫 研治 (独)農業・生物系特定産業技術研究機構
(乳用牛研究会座長) 北海道農業研究センター畜産草地部長

番場 久雄 愛知県農業総合試験場畜産研究部長
(鶏研究会座長)

向井 文雄 神戸大学農学部応用遺伝学教授
(肉用牛研究会座長)

吉田 小夜子 養豚自営業

食料・農業・農村政策審議会生産分科会畜産企画部会
家畜改良増殖小委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

阿部 亮 日本大学生物資源科学部動物栄養科学教授
(豚研究会座長)

金井 俊男 (財)畜産環境整備機構副理事長
(馬、めん羊・山羊研究会座長)

竹林 孝 北海道農政部農政課長

富樫 研治 (独)農業・生物系特定産業技術研究機構
(乳用牛研究会座長) 北海道農業研究センター畜産草地部長

番場 久雄 愛知県農業総合試験場畜産研究部長
(鶏研究会座長)

向井 文雄 神戸大学農学部応用遺伝学教授
(肉用牛研究会座長)

吉田 小夜子 養豚自営業